

第9章 情報公開・説明責任

9-1 広報部

達成目標

ステークホルダーから見て、情報を公開するだけでなく、その情報の見方についても解説されている分かりやすい情報を公開する。

目 標

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の趣旨による、国際競争力の向上をはかるべく項目についてもWeb上に掲載する。

現状説明

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の趣旨に沿った項目については、関係部署（学長室、法人本部高等教育部、法人本部財務部）との連携を図り対応について協議し、これまでに義務的9項目、努力目標とされる項目の情報公開にあたってきた。また、年次更新に際しては、その都度改善にあたっている。今年度の目標である国際競争力の向上をはかるべき項目についても同様に、国際部と連携し対応にあたっている。

東海大学英文版サイトでは、大学概要等の基本情報に加え、留学生支援に関するページや「TOKAI COOL JAPAN」などの特色ある取組みについての訴求ページを掲出している。加えて、東海大学へ留学・入学を希望者する者向けの発信強化に重点を置きサイト更新を行い、情報の拡充を図った。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> B

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の趣旨に沿った情報公開・説明責任においては、Webを通じ情報を掲出している。今年度は国際競争力の向上をはかるべく項目において情報の拡充に努めているが、改善スピードは遅く、公表が求められる情報に対し質・量ともに満たせていない。

<成果と認められる事項>

留学生募集に重点を置いた対応を図り、英文版サイトや日本在住の留学生が閲覧できるページなどの情報更新を行い、改善を行った。また、外国人学生向けの教育プログラムを紹介するなど閲覧者に分かり易い内容に改め、求められる情報掲出に重きを置いた公表を行った。

<改善すべき事項>

海外向け発信の観点から英語を含む外国語での公表が望まれているが、基本的な指標を含め構成する内容を満たしていない。特に数値化が求められる情報について、掲出量が不足している。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

「情報の公表」項目に対し、わかりやすくするために表記の工夫やビジュアルを用いた

表現など改善を行っている。また、留学生サイトを通じ日本在住の留学生も閲覧できるような情報掲出の内容を改め、わかりやすさを向上させる。

<改善方策>

大学の国際戦略に留意し、公表が求められる情報についての精査をしたうえで掲出内容および方策を検討し、積極的な情報公開に繋げる。継続的な取組みによって、有益性のある情報伝達に重点を置き、情報量を増やす施策を進める。

9-2 学長室

達成目標（1）

ステークホルダーから見て、情報を公開するだけでなく、その情報の見方についても解説されている分かりやすい情報を公開する。

目 標

自己点検評価報告書の公開を踏まえた編集の実施。

2012年度目標：外部評価の実施。

現状説明

大学評価室が中心となって 2011 年度にステークホルダーから見て分かりやすい情報を公開するため、教育研究年報（自己点検評価報告書）のダイジェスト版を作成することを計画していたが、現在までに作成には至っていない。要約版の公開が急務であるが、文部科学省が推進している大学ポートレートの状況を鑑みながら、計画立案、概要の検討にとどまっており、具体化のための準備が遅れているのが現状である。

一方、第Ⅱ期中期目標に対する基礎情報として、2014年3月、学内の教職員対象としたデータベースをまとめて大学評価室のHPに掲載した。今後は、企画課と連携して大学ポートレート等などの情報公開に活用することができると考えている。

点検・評価**<行動計画内容の達成度> C**

要約版の内容について、具体的に検討されたものの、具体的な公開までには至らなかった。また、ダイジェスト版の作成は、未だ計画・準備段階であり、外部評価の実施には至っていない。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

学内の教職員、さらには外部のステークホルダーへの情報公開を目指すための計画を明確にする。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方策>**

特になし。

<改善の方策>

来年度以降は、文部科学省が推進している大学ポートレートの状況を鑑みながら、学内の教職員、さらには外部のステークホルダーへの情報公開を目指す。

達成目標（2）

学外（卒業生等のステークホルダー）からの意見を聴取し、大学の改善に役立てるためのwebを活用したネットワークを構築する。

目 標

行動計画内容：Webを活用したネットワークを構築する。

2013年度目標：Web構築の完成。

現状説明

2013年度も、公式Webサイトには、卒業生のためのWebネットワーク「東海大学ネット」内に、「感想・意見・リクエスト等はこちらから」と称して、卒業生が情報を送るためのメールアドレスを記載している。また、学長室企画課をはじめ、各種問合せの窓口を記載し、卒業生を始めとするステークホルダーからの意見聴取の仕組みを作っているが、学外からの意見聴取システムの具体化を進めているとは言い難いのが現状である。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> C

学長室企画課等、各部門の問合せ窓口のメールアドレスは表記しているものの、公聴広報機能は有している段階までは進んでいないので、実現度は「C」と自己評価できる。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

公式Webサイト上で情報の公表の整備を進めているが、学外からの意見を公聴するシステムの整備は不十分である。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

特になし。

<改善方策>

抜本的な取組が必要である。

Webによる公聴機能強化には、学長室、総合情報センター及び法人経営企画室広報課を中心として、卒業生対象であれば校友課等の関連部署が参画するかたちで、検討を進めていく必要がある。

9-3 事務部

達成目標（1）

ステークホルダーから見て、情報を公開するだけでなく、その情報の見方についても解説されている分かりやすい情報を公開する。

目 標

〔事務部〕

後援会、同窓会、支援者、受験生等に発信する情報について、対象者ニーズを常に把握し、タイムリーで分かりやすいものとする。

〔校友課〕

同窓会情報・学園の現況等、常に最新の情報を公開する。

〔伊勢原経営企画室〕

受験生向け情報提供は、オフィシャル・HPに掲載。伊勢原キャンパスHPで、それ以外の研究者等ステークホルダー及び学内教職員・在学生向けの情報を提供する。例；公開講座情報、医学部年報検索ファイル(5 ヶ年)、各種フォーマット・ダウンロードページ、伊勢原キャンパス・写真カット集等を新設予定。

現状説明

〔事務部〕

校友課において、後援会、白鷗会（不知火会）、同窓会等の行事や校友会HPにおいて、常に最新の情報を提供するよう取り組んだ。また、伊勢原校舎においては伊勢原キャンパスHPと、医学部、医学研究科、健康科学部、健康科学部研究科、医学部附属病院の各HPとの整理を行った。

〔校友課〕

東海大学校友会各会のホームページから常に最新情報を公開する。学園の現況は校友会の関連するものはホームページから紹介するほか、校友会関連の各行事の際に出席者（課員・来賓として出席する教職員）から直接参加者に対して報告を行う。報告内容は広報資料等を基に毎月現状に合わせて変更・確認し、常に最新のものを聞き手に報告できるようにする。

〔伊勢原経営企画室〕

伊勢原キャンパスHPについて、昨年度と同様、効率的な予算執行を目的に伊勢原キャンパスHPの役割分担を継続した。公開講座情報、医学部年報検索ファイル(5 ヶ年)、各種フォーマット・ダウンロードページについては、医学部HP、医学部研究科HP、健康科学部HP、健康科学部研究科HP、医学部部附属病院群HPに集約リンクにより対応することとした。

伊勢原キャンパスHPは、トピックスやダウンロードページの肉を切り落とし骨格のみとして、経費節減を継続しながらも、全学の情報ともリンク出来る入口として、東海大学のスケールも感じられるものとしている。

点検・評価

＜行動計画内容の実現度＞ A

〔事務部〕

校友会HPの改善に取り組んだ結果、同窓会HP訪問者が昨年度の53,365件から69,284件に増加した。伊勢原校舎においては、各HPとの整理を行い、検索の容易性が高まった。これは経費の削減にも繋がった。

〔校友課〕

2013年4月～12月の同窓会HPの総閲覧者数69,284で前年同時期の53,365件から15,919件増加し、訪問者の延べ数は増えた。

〔伊勢原経営企画室〕

伊勢原キャンパスHPについては、経費節減によりアクセスカウンターを設置していない。行動計画の目標は、他HPにて実現している。

＜成果と認められる事項＞

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

同窓会各支部・学科からの開催案内を元に同窓会からのお知らせを逐次HPのニュース&トピックスに掲載し、参加者を募った。

〔伊勢原経営企画室〕

予算節減効果。

＜改善すべき事項＞

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

同窓会ホームカミングデーのHP（同窓会HPからリンク）の内容の充実・掲載タイミングの早期化を図る。

〔伊勢原経営企画室〕

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方法＞

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

引き続き、同窓生に向けた情報を逐次速やかに公開する。

〔伊勢原経営企画室〕

効率的な予算執行のため、HPの役割分担を継続する。

＜改善方策＞

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

ホームカミングデーHPは昨年度の情報を掲載し、今年度の企画が決まり次第差し替えるようにする。

〔伊勢原経営企画室〕

特になし。

達成目標（2）

学外（卒業生等のステークホルダー）からの意見を聴取し、大学の改善に役立てるためのwebを活用したネットワークを構築する。

目 標

〔事務部〕

大学ホームページ、東海大学ネット、付属高校生等、既存のネットワークを積極的に活用し、大学の方向性に関する意見を幅広く求めて行く。

〔校友課〕

東海ネット再生・充実を図り、加入・参加者増を目指す。

〔伊勢原経営企画室〕

伊勢原キャンパス医学部HPに、通信欄（ご意見や提案等）を設け、改善に役立てていく。

※伊勢原キャンパスHPは、2007年に健康科学部、2008年に医学研究科、2009年に医学部と順次計画に基づき、リニューアルを進め、トップページ等分かり易いデザインを検討、学外一般向けにアピールでき、詳細で新鮮な情報を提供し、学内向けにも使いやすく便利なサイトとすることを指針とし、年次ごとに内容の充実を図る。

現状説明

事務部〕

ステークホルダー等とのネットワーク学外（卒業生等のステークホルダー）からの意見を聴取し、大学の改善に役立てるという目標達成のインフラ作りのため、校友課において同窓会員に生涯メールアドレスの取得を呼びかけた。また、伊勢原校舎においてはHPの完全リニューアルを行い、タイムリーな情報提供を行える環境を整備した。

〔校友課〕

東海大学同窓会HP、及び大学新聞同窓会特集号（9月初旬発行）で、同窓会員に登録を呼びかけた。登録者には学園メルマガ（T-Cross）を月一回発行し、学園の最新情報を発信した。登録代行サービス、及びログイン情報の発行は常時受け付けている。生涯メールアドレスの取得者は9,776人で昨年度より193人増加、そのうち転送先を設定している方は9,361人で昨年度より129人増加した。（昨年までの総数は重複を含んでいた為多くなっている。）

〔伊勢原経営企画室〕

健康科学部HPを完全リニューアルし、Topics & News等でタイムリーな情報提供を行なえる環境を整備した。特に全学の情報ともリンク出来る様にして、東海大学のスケールも感じられるものとしている。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> B

〔事務部〕

生涯メールアドレスの取得者の増加率は、2.0%であった。しかし、伊勢原校舎を含めて、現時点では目標としたステークホルダー等からの意見吸収には繋がっておらず、更な

る努力が必要である。

〔校友課〕

増加率は、メールアドレスの取得者は 2.0%、転送先を設定している人は 1.3%であった。

〔伊勢原経営企画室〕

2013 年度（4 月～1 月）の閲覧件数は、月平均で 15,335 件であった。2012 年度月平均 15,362 件と比較し、閲覧率の伸びは無かったが、健康科学部HPの完全リニューアルは達成した。

<成果と認められる事項>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

学園からのメールマガジンの東海大学ネット経由の購読者は 6,479 名（2014/2/25 現在）。

〔伊勢原経営企画室〕

上記、現状説明のとおり、健康科学部HPの完全リニューアルを行なった。

<改善すべき事項>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

引き続き、2008 年度以降の卒業生への Web サービスの提供、及び旧九州東海大学・旧北海道東海大学・旧短期大学部高輪及びその前身の各大学出身者への登録手段を構築すること。

〔伊勢原経営企画室〕

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

引き続き、学園の最新情報を発信する手段として、また同窓生相互の交流を促進するためのツールとしての利便性を広報する。

〔伊勢原経営企画室〕

特になし

<改善方策>

〔事務部〕

特になし（個別課題については各校舎・部署毎の記載による）。

〔校友課〕

現状では生涯メールアドレスの転送サービス・メルマガの購読が主な利用方法となっている。メールサービスはシステムの更新が 2014 年度中に予定されており、更新にかかる費用対効果を含めて、サービス継続方法を確認し広報を行う。

〔伊勢原経営企画室〕

特になし。